

事例Ⅲ 木の文化を支える森づくりを学ぶ

(東北森林管理局 岩手南部森林管理署)



- 岩手県奥州市(おうしゅうし) 衣川(ころもがわ)小学校
- (左) 平泉文化と森林の関わり等を講義 (右) ヒバの年輪かぞえ

岩手南部森林管理署では、平成 21 年、地元の平泉古事の森育成協議会と協定を締結し、木の文化を支える森として「平泉古事の森」を設定しました。この協定に基づき、同署では、世界文化遺産に登録されている平泉地域の寺社・仏閣等の歴史的建造物の修繕等に必要なたヒバの大径材を育成しつつ、地域と連携しながら、次世代を担う地元の小学生に木の文化継承する上で、ふるさとの森林を支えることの重要性について意識醸成を図っています。

令和 3 年度には、地元小学校（4 校）の児童を対象とした森林教室を開催し、平泉文化と森林の関わり、文化財に使用されている木材の特徴、森林の機能や育成の流れを説明した後、校庭で、児童たちは、丸太切り、年輪数え等を体験しました。これらの取組を通じて、森林の大切さや木材と生活の関わりを始め、森林と文化のつながりに対する児童の関心が高まった様子が見られました。

引き続き、地域の歴史的建造物など木の文化の継承に貢献する森林づくり活動や森林教室等の活動に取り組んでいくこととしています。